平成29年壮警町議会第2回定例会を、次のとおり招集する。

平成29年6月2日

壮警町長 佐藤 秀敏

記

1 期 日 平成29年6月15日

2 場 所 壮警町役場 大会議室

3 付議事件（予定）

- (1) 農業委員会委員の任命について
- (2) 農業委員会委員の任命について
- (3) 農業委員会委員の任命について
- (4) 農業委員会委員の任命について
- (5) 農業委員会委員の任命について
- (6) 農業委員会委員の任命について
- (7) 農業委員会委員の任命について
- (8) 農業委員会委員の任命について
- (9) 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- (10) そうべつ子どもセンター条例の一部を改正する条例の制定について
- (11) 胆振支庁管内公平委員会規約の変更について
- (12) 平成29年度壮警町一般会計補正予算（第4号）について
- (13) 平成29年度壮警町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について
- (14) 平成28年度壮警町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について
- (15) 平成28年度壮警町一般会計事故繰越し繰越計算書の報告について

○応招議員（9名）

1番 佐藤 恣君

3番 毛利 爾君

5番 真鍋 盛男君

7番 高井 一英君

9番 松本 勉君

2番 菊地 敏法君

4番 森 太郎君

6番 加藤 正志君

8番 長内 伸一君

○不応招議員（0名）

平成29年壮瞥町議会第2回定例会会議録

○議事日程（第1号）

平成29年6月15日（木曜日） 午前10時00分開会

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 諸般の報告

日程第 4 委員会の所管事務調査報告

日程第 5 行政報告

日程第 6 一般質問

日程第 7 議案第38号ないし議案第50号並びに報告第1号及び報告第2号

（提案理由説明・議案内容説明）

○出席議員（9名）

1番	佐藤	恣	君	2番	菊地	敏	法	君
3番	毛利	爾	君	4番	森	太	郎	君
5番	真鍋	盛	男	君	6番	加藤	正	志
7番	高井	一	英	君	8番	長内	伸	一
9番	松本	勉	君					

○欠席議員（0名）

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町	長	佐藤	秀	敏	君
副町	長	杉村	治	男	君
教育	長	田鍋	敏	也	君

会計管理者

小松正明君

税務会計課長

総務課長（兼） 作田宏明君

総務課参事 庵 匡君

総務課参事 上名正樹君

住民福祉課長 小林一也君

経済環境課長（兼） 阿部正一君

商工観光課長 齊藤英俊君

建設課長 工藤正彦君

生涯学習課長 山本貴浩君

選管書記長（兼） 作田宏明君

農委事務局長（兼） 阿部正一君

監委事務局長（兼） 齋藤誠士君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長（兼） 齋藤誠士君

◎開会の宣告

○議長（松本 勉君） ただいまより平成 29 年壮瞥町議会第 2 回定例会を開会いたします。

◎開議の宣告

○議長（松本 勉君） 直ちに本日の会議を開きます。
（午前 10 時 00 分）

◎議事日程の報告

○議長（松本 勉君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（松本 勉君） 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。
本日の会議録署名議員は、会議規則第 116 条の規定により、議長において
3 番 毛利 爾君 4 番 森 太郎君
を指名いたします。

◎会期の決定について

○議長（松本 勉君） 日程第 2、会期の決定についてを議題といたします。
お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から 6 月 16 日までの 2 日間といたしたい
と思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（松本 勉君） ご異議なしと認めます。
よって、会期は本日から 6 月 16 日までの 2 日間と決しました。

◎諸般の報告

○議長（松本 勉君） 日程第 3、諸般の報告を行います。
議会一般、総務、経済常任委員会所管事務調査報告、監査委員からの例月出納検査結果
報告、各団体からの陳情、要望等、一部事務組合議会報告につきましては、お手元に配付
のとおりであります。
今期定例会の付議事件は、議案 13 件、報告 2 件であります。
以上で諸般の報告を終わります。

◎委員会の所管事務調査報告

○議長（松本 勉君） 日程第4、委員会の所管事務調査報告を行います。

経済常任委員会委員長に調査結果の報告を求めます。

真鍋経済常任委員会委員長。

○経済常任委員会委員長（真鍋盛男君） 経済常任委員会では、5月23日に壮警町商工会青年部との懇談を実施しました。その結果、次のとおり調査の結果を報告いたします。

調査の方法、懇談会の開催、調査をするための懇談会を開催し、青年部の概要や年間活動を調査し、意見交換を行いました。

委員会に出席した委員、委員会に職務のため出席した者、委員会に出席した青年部員は、お手元に配付の書面のとおりであります。

委員会の調査結果、壮警町商工会青年部は、賛助会員含め総勢14名で活動をしており、お祭り等イベント関係への参加、商工観光課と連携し、壮警町の観光PR活動、経営に関する研修会、また青年郷土史講座を開き地域を知る勉強会などを行っております。平成28年度からは、札幌市立大学の教育プログラムへの参加をしており、拡張キャンパス型地域連携で大学の持っている知識を地域に落とせないかという研究の手伝いを3年間の計画で実施しています。ことしの9月末にはワークショップも予定しており、地域住民とのかかわりも持ちながら事業を展開するとのことでありました。青年部からは、壮警町の人口減少問題について、いかに壮警町で働いてもらい、壮警町に住んでもらうか、また住んでもらうとしても空き住宅や土地がないという問題をどのように解消していくのかなどの問題意識や働く場所をふやすためにも企業誘致のためのPR方法、起業支援も現在は上限200万円まで補助を受けられるが、業種によって補助の額を変えられるようにしてはどうかなどの意見がありました。このほか久保内地区の活性化や町道の維持管理等についても意見交換を行いました。

以上で経済常任委員会所管事務調査の結果を申し上げ、報告といたします。

○議長（松本 勉君） ただいま報告のありました経済常任委員会からの所管事務調査結果について質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（松本 勉君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

これにて委員会の所管事務調査報告を終結いたします。

◎行政報告

○議長（松本 勉君） 日程第5、行政報告を行います。

町長。

○町長（佐藤秀敏君） 本日、第2回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、時節柄大変お忙しい中、定刻までに全員のご出席をいただき、まことにありがとうございました。

平成 29 年第 1 回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第 1 回定例会以降における工事発注一覧表を配付してありますので、ご照覧ください。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。6 月 2 日、室蘭地方総合開発期成会として、胆振総合振興局、室蘭開発建設部に対し、平成 30 年度の国費等の要望を行いました。本町といたしましては、地すべり対策の推進、国道 453 号の整備促進、道道洞爺湖登別線、有珠山外環状線の整備促進、町道上立香第 2 線の道道昇格要望、長流川水位計、雨量計の設置、また農業被害に対する要望を行いました。なお、当日は松本議長にもご同行をいただいております。また、6 月 10 日、自由民主党北海道第 9 区選挙区支部主催の移動政調会が地域交流センター山美湖で開催され、町として町道上立香第 2 線の道道昇格要望を行いました。

次に、4 月 18 日の暴風雨による災害についてご報告申し上げます。去る 4 月 18 日未明から夕方にかけての暴風雨についてであります。暴風警報が午前 3 時 16 分に発令され、低気圧が急速に発達し、伊達市で最大風速 31 メートル、降雨は壮瞥町滝之町で 100 ミリを記録しております。また、暴風による倒木等の影響で停電も長時間にわたり発生しております。暴風雨による被害としましては、さきの臨時会でも補正をさせていただきましたが、災害復旧費 3,029 万 6,000 円を計上しております。道路関係では、風倒木や路肩等修繕、農林水産施設関係では農業排水施設の土砂処理や林道の風倒木による被害、文教施設では地域交流センター山美湖の屋根等、公共施設関係では旧滝之町保育所の屋根、壁、森と木の里センター等町有地内の倒木による被害であります。

このたびの災害は、強風による農業被害が壮瞥町及び近隣においても多く発生しており、特に営農施設であるビニールハウスの全壊、半壊、ビニール破損が当町では計 89 棟となっております。また、農業用倉庫の全壊は計 15 棟であります。壮瞥町全体の農業被害は、1 億 3,320 万円となっております。年度初めにこのような事態となったことを踏まえ、今後の気象状況を危惧しており、町民の安全、安心のため職員一丸となり、対応してまいりたいと考えております。

次に、中学校の統合と統合後の生徒等の様子等についてご報告申し上げます。本年 4 月、久保内校区の保護者、地域の皆様のご理解とご協力により中学校を統合し、新しい壮瞥中学校がスタートしました。学校統合は、新たな出会いと多様な価値観に触れる機会をふやし、集団的な活動や切磋琢磨する環境が整うことにより、生徒の成長を今まで以上に促すものと期待しております。生徒たちは、生徒数が増加したことなど、それぞれ新しい環境に溶け込みながら学校生活を送っているものと承知しております。久保内校区の生徒たちは、休まず登校しております。これは、平成 27 年度から教育課程の統一や部活動の合同実施など両校が準備、交流を図ってきた学校の取り組みの成果とともに、大村校長先生を初め 3 名の久保内中学校教職員の転任、配置について北海道教育庁胆振教育局の配慮を賜ったことなどによるものと考えております。学校や生徒の様子につきましては、本年度開設

した学校のホームページや毎月発刊される学校だよりで順次紹介されますので、ごらんいただきたいと思っております。町及び教育委員会といたしましては、新しい中学校が新たな伝統と校風を創造し、さらなる飛躍を遂げられるよう全ての関係者の力を結集してまいり所存ですので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、昨年まで久保内小学校、中学校合同で実施されておりました大運動会は、小学校と地域の皆さんによる実行委員会が主催する形で久保内地区合同大運動会として、去る6月4日日曜日に久保内小学校を会場に約160名の参加のもとで盛大に開催されたところでありますので、あわせてご報告いたします。

以上、平成29年第1回定例会以降における町政の主なものについてのご報告といたします。

○議長（松本 勉君） これにて行政報告を終結いたします。

◎一般質問

○議長（松本 勉君） 日程第6、一般質問を行います。

一般質問の通告がありますので、通告順に順次発言を許します。

4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 私は、特産品開発と農業振興について伺います。

本町は、豊富な農産物に恵まれており、これらを活用した特産品開発に要する費用や流通拡大等に要する費用補助を行っているが、この事業かもたらしている効果と課題について伺いたい。

1点目、これまで取り組んで誕生してきた商品の評判とそれによりもたらされた効果、今後の見通しを伺いたい。

2点目、特産品開発の原料となる農産物の生産を将来どのように振興奨励していこうと考えているか。また、その際の課題について伺いたい。

3点目、本町の農商工連携による特産品開発の課題をどう捉え、今後どう展開していこうと考えているか。

以上、伺います。

○議長（松本 勉君） 答弁、町長。

○町長（佐藤秀敏君） 4番、森議員のご質問にご答弁申し上げます。

1点目のご質問ですが、これまで開発してきた商品は、個々の取り組みを支援する特産品開発支援事業においては、リンゴを原料としたゼリー、乾燥チップ、奥洞爺牛を原料としたレトルトビーフシチューやカレー、ミニトマトを原料としたアイスクリーム、ワインや甘酒などがあります。いずれも道の駅や自社店舗等で販売を継続しておりますので、一定の評価をいただいていると認識しております。また、農業者と商工業者が連携して取り組む事業を支援する農商工連携支援事業につきましては、リンゴを原料としたシードルが開発され、2シーズン目の今年度についても順調に販売され、品質についても非常に評価

が高いと聞いております。

特産品開発がもたらした効果については、加工品を生産することで冬期の作業が生まれ、従業員の通年雇用につながったこと、それまで無駄にしていた規格外品等の活用、また商品開発へのチャレンジをアピールすることで会社のイメージアップにつながった、機械導入により委託加工では難しかった小ロットの試作が可能になったとの声をいただいております。開発された商品が経営の柱となるにはもう少し時間がかかりそうですが、徐々に新たなチャレンジが生まれてきたことは喜ばしいことであります。今後も飛躍的に開発件数が伸びることはないかもしれませんが、地道に潜在的需要を掘り起こしながら、事業継続に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目のご質問ですが、現在までの間壮警町の特産品として開発してきました商品の原料となる農産物は、リンゴやトマト、カボチャ、豆など壮警町を代表する農産品により商品開発が進められてきました。また、壮警町は、畑作、稲作、果樹など多くの農産物を生産しておりますので、特産品開発の可能性はさらに広がるものと考えております。今のところ特産品開発の原料となる農産物を戦略的に特定してはおりませんが、壮警町の農業は1戸当たりの平均耕作面積が7から8ヘクタールとなっており、北海道平均の28ヘクタールに比べ3分の1以下の狭小な規模となっております。また、生産される農作物も多種多品目であることから、1品目当たりの収穫量がそれほど多くはないため、特産品の原料としてはその農作物の確保量を見きわめながら進める必要があると考えております。こうしたことから、今後は限られた農地を有効に活用するため農地の集約を進め、効率のよい耕作により特産品の原料はもとより全ての農産物において一定の収穫を得られるよう対策を進めていきたいと考えております。

最後に、3点目のご質問についてですが、本町の農商工連携による特産品開発の課題については、やはり特産品の原料となる農業生産力をどう維持し、振興していくかが第1の課題であります。2つ目の課題としては、町内に加工を担う法人や加工施設がないことであります。現状では、町外や遠方の業者に加工を委託していることで生産コストの高どまり、新商品の開発に手間と時間がかかるという問題があります。3つ目の課題としては、開発者だけでは商品の販路拡大や広告宣伝、新たな商品開発に向けた市場調査などを行うことが難しく、どうしても単発的な取り組みになってしまうことであります。

今後の展開としては、第1の課題については農商工連携推進委員会など分野を超えた協議の場を持って振興策を検討していきたいと思っております。第2、第3の課題については、市場調査を行いながら継続的に開発を仕掛けていく仕組みづくり、加工生産体制の構築、開発されたものの販路開拓、商品の広告宣伝等、戦略性を持った展開が必要であると考えています。これまでのように行政が個々のチャレンジを支援する事業を継続しつつも、民間の力で商品ブランドづくりを総合的にプロデュースするいわゆる地域商社の取り組みについて調査研究してまいりたいと考えておりますので、議員のより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、ご答弁といたします。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） それでは、答弁に沿って再質問を行ってまいりたいと思います。

1点目で答弁ありましたけれども、特産品開発支援事業により地域の農産物を活用、加工し、誕生してきた商品の多くが町内、道の駅の売店等に陳列されており、その販売が継続されていると。そのことで一定の評価がなされているとの認識があるという答弁でございます。このことは、地域の特産品としての認知度が高まっているかといえ、必ずしもそうはなっていないと。確かに関係者の積極的な取り組みで多くの商品が誕生しているということは理解できます。しかし、特産品として認知されるためには、その地域の範囲を超えたより大きな市場において一定の評価を受け、消費需要が発生し、継続的に販売供給できる商品になることが必要条件になると思うのですが、その辺についての考え方を伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ただいまのご質問にご答弁申し上げます。

議員のおっしゃるとおり、現在のような町内販売をメインとした販売状況ということになりますと、経済効果としてはやはり限定的にならざるを得ないということは感じております。ただ、もちろん開発した商品の個々の事業者においては、町内外への拡大を仕掛けていらっしゃる事業者もいらっしゃいますし、さらに町及び関係機関で札幌や首都圏で行われるイベント等に参加いたしまして、適宜商品のPR等は進めているところであります。しかし、今後議員のおっしゃるようなさらに大きな市場での販売拡大ということになりますと、その市場での評価を得て増産体制を築いていく、規模を発展させていくには、専門的な市場調査や販路開拓に向けた営業活動等が必要であると考えておりまして、今後はそのような役割を担う体制づくりが重要であると認識しておりまして、現在その調査研究に着手しているところであります。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 町が特産品開発という形で今取り組み始めて、それを規模拡大していくという途上でございますから、できる限り早くそういう効果的な事業の取り組みの展開の仕方について研究していただきたいと思います。

次に、雇用の拡大についても私質問したのですけれども、雇用の確保につながっているのはまだ個々の開発の段階であり、冬期の加工作業が発生したことによって雇用の拡大があるということです。これは、特産品開発の効果としてあらわれているかということになると、そういうことではなくて、消費需要が発生したことによって生産体制の強化が必要となって、雇用拡大につながるということだと思っておりますが、例えば現状の道の駅ですとか生産者が店頭で販売するということが、それが雇用の拡大につながっているかということ、それはちょっと違うのではないのかなと思うのですが、この辺についての考え方について伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

今のご指摘のとおり、個々の事業者においては、雇用の確保といえますか、雇用の継続性を何とか担保できているというような状況であります。なかなか現在の町内的な販売をメインとした経済活動では、大きな雇用に結びつけるというのは現在直近には難しい状況であると思います。

今後は、先ほど申し上げました専門的な知識、それからノウハウを持った町全体の農作物を市場調査しながら商品を開発していく、それからそれを総合的にプロデュースしていくということが必要でありまして、そういったものを今後大きな市場の販路拡大に結びつけてまして、さらに町内でいろいろな事業が展開されていくというような構想を描くことによりまして雇用の拡大というところにつなげていきたいと思ひまして、そういった部分の調査研究を進めてまいりたいと思ひます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 1点目の答弁の終わりの部分で、今後の見通しについて述べておられました。商品開発を経営の柱としていくためには、潜在的需要を掘り起こしながら事業を継続していくということですが、この潜在的需要掘り起こしのための具体的な対策があればお伺いしたいと思ひます。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

特産品開発の潜在需要の掘り起こしにつきましては、これまで農商工連携のタベというフォーラムを平成27年度、28年度と2回開催してまいりました。その中で、先進的な取り組みを行っている経営者を招きまして、それらの事業を学ぶことで特産品開発に向けたチャレンジを誘発する取り組みを行ってまいりました。商品開発においては、女性のセンスを生かすことが大切だと考えておりまして、講師の選定においても2回とも女性経営者を招いております。今年度につきましても11月を想定しておりますが、商工会と連携いたしまして、町内の女性をターゲットとしたフォーラムを実施したいと考えております。こういった地道な需要の掘り起こしと両輪で、今後は先ほども答弁いたしましたとおり戦略的な仕掛けをしていくことが必要であると認識しておりまして、そういった体制づくりに向けて検討を進めてまいりたいと思ひます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 今まで町で仕上がってきた商品の評価という部分で、私なりに一応考え方をまとめてみました。特産品開発における課題というのは、その商品が消費者に受け入れられるものに仕上がっているかということだと思います。一つの要素としては価格でございますが、価格は原材料費、加工費用、それから流通費用等を計算して、生産者

や加工者が得る利益を上乗せして決められていくということになると思います。このコスト積み上げは、現状私どもの町村で行っているのは委託が主ですから、結果的には高価格になってしまうということだと思います。しかし、その商品の品質の高さが消費者に理解されるといいますか、受け入れられるものになっていれば、たとえ価格が少々高くても受け入れられることもあるとは思いますが、ただ、一般的な消費者に受け入れられるということについては、かなりハードルが高いのではないかと思います、考え方について伺います。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

先ほど答弁の中でも申し上げましたとおり、特に加工が町外等の業者を利用しているということで、どうしてもその価格が高どまりになっているということを申し上げました。こちらについては、今後検討を加えていくことといたしますが、商品の色分けといいますか、そういったものは2方向あると私は考えております。まず、今現在道の駅で販売しているような少し価格を抑えた、こちらに来られた方が求めやすいちょっとした工夫をした商品、こういうものはいわゆる観光地としてにぎやかな売店をつくるために一定量必要であると考えております。こういったものを適宜仕掛けつつも、やはり高い付加価値をつけた商品、今ですとシードルなどがありますけれども、こういったものを先ほど議員おっしゃられたような大きな市場に販売攻勢をかけてチャレンジしていく商品として、こういったものは多少高どまりの値段の傾向にあっても、それを消費者にご理解していただくような商品の売り方、PRの仕方、こういうものを努力して市場を拡大していくものと考えておまして、こういった2つの方向性が考えられまして、そういった戦略も練っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 非常に難しい取り組みではあると思います。

次に、販路の課題という部分でございますけれども、でき上がった商品の販路といいますか、これは非常に大きな問題であると。確かに道の駅での販売といいますか、数多くの品物が並んでいるというのは理解できるし、それがご当地産の産物としては当然重要だと思いますけれども、それが大消費地への売り込みができるかということにはまずつながっていかないということだと思います。確かに来た場合にはそれはそれで理解されるという部分はあると思うのですが、それが大消費地への売り込みで多く出るということにはつながっていかないのではないかと思います。

答弁の後半でも触れておられましたが、一つの考え方として大消費地をターゲットにしたマーケティング戦略といいますか、そういうものが必要になってくるとは思います。その際に大消費地の居住者の消費傾向、嗜好、それから競合状況などを熟知したプロデューサー的役割を持った人材の確保が特産品開発には不可欠であると言われております。先ほ

ども答弁では触れておられましたが、ぜひ地域商社の取り組みと申しますか、それは進めたいと思っておりますが、これはできれば農家経済、もしくは地域経済というのは待ったなしの状態にあると思っておりますので、その辺は早急に取り組んでいただきたいと思うのですが、その辺についての考え方を伺いたいと思っております。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

今おっしゃっていただきました地域商社につきまして、ご理解をいただいているということとありがとうございます。我々としても特に農商工連携の推進委員会、それからその実行部隊として活動しておりますテークアウト検討の委員会においても単発の商品開発だけにとどまらず、より経済効果を生む動きへの研究ということで、委員の皆さん等から積極的な意見がありまして、地域商社の研究を進めたいということになってまいっております。ことしの8月には特にテークアウトコーナーの委員を中心にいたしまして、東北地方1件、それから北関東地方1件の地域商社の取り組み事例を先進地の視察に行っておりまして、こういった勉強を通して、壮瞥町に合ったあり方、組織のつくり方というものを検討いたしまして、なるべく早い段階でそういった動きに移行できるように努力してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） これは、平成26年の定例会において他議員のほうから一般質問があつて答弁された部分で、特産品開発支援施策の方向性と具体的な取り組みの考え方というのが示されてございました。一般質問の中では農商工連携推進委員会を設置、委員会の機能向上を図るために外部有識者の参画、実務者レベルの組織の設置等で特産品販売の現状分析や農商連携のあり方、それから特産品認定制度創設や特産品開発以外の農商連携の研究を行っていくと、そういう答弁がございましたけれども、その後それがどうなっているかという部分についてお伺いしたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

農商工連携推進委員会につきましては、構成員を商工会、農協、農業委員会、観光協会、道の駅の農産物直売所指定管理者及び町の関係課で組織しております。組織自体は、平成24年度に設立しておりますが、議員のご質問にありまして、26年度にはより機動的な対応をとれる組織、検討協議を進めることができる組織として幹事会というものを設置いたしまして、外部有識者といたしましては1次産業の事業化に詳しいコンサルタントの会社のトップに加わっていただきまして、その後年間3回から4回の協議を継続的に行いまして、事業を進めているところであります。その協議等の成果につきましては、平成27年の5月に壮瞥町農商工連携推進基本戦略を取りまとめまして、行政主導ではなく民間の力を生かした事業推進を基本として、町内に利益を還元する取り組みを模索し、一部は事

業を進めているところであります。

現在その策定いたしました戦略において4つのモデル事業というのがありますが、まずその一つでありますご当地ドリンクの開発事業においては、シードルづくり実行委員会の動きの支援策を創設いたしました。また、もう一つのテークアウト商品の開発販売事業におきましては、平成28年の4月に実働部隊となるテークアウトコーナー検討委員会を設立いたしまして、現在グルメマルシェ等のテストイベントの開催や先進地視察を展開しております。まだそのほか未着手になっている部分もありますが、今後農商工連携事業の総合的な方向づけをする組織といたしまして、定期的な協議検討を行ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） おおむね理解したところです。

次に、特産品開発における農産物の生産振興についての考え方についてお伺いします。答弁では、町内の耕作面積の規模は小さいが、町内における農産物も畑作、稲作、果樹等多種多品目であることから、収量の確保の面から特産品開発の可能性は広がっていると。ただ、農産物の特定については、戦略的には特定しないということですが、これは特産品開発という流れに逆行しているのではないかと思われるわけです。特産品開発は、今ある地元の産品を活用して加工、製造し、販売につなげていくということで本町の知名度向上や観光振興、さらには農業の活性化にもつながっていくのではないかと思います。考え方についてお伺いいたします。

○議長（松本 勉君） 答弁、経済環境課長。

○経済環境課長（阿部正一君） 農業関係なので、私のほうから答弁させていただきたいと思っております。

今議員のほうから農産物を特定しないことは特産品開発の流れに逆行するのではないかというご質問だったのですけれども、壮瞥町は多くの種類の農産物を生産しておりますので、野菜であっても果物であっても農産物を原料とした特産品開発の可能性は広いというふうに考えております。可能性が広いということは、アイデアも無限に広がるということだと思っております。今は奨励作物といえますか、原料の特定はしていないという状況でありまして、決して逆行しているということではなくて、全ての農産物に対して特産品開発の可能性を残しているということでございます。ただ、この先もずっと特産品の原料を特定しないということではなくて、今のところ予定というのは特にはないのですけれども、今後場合によっては特定の作物を栽培奨励するという可能性もなくはない、あり得るというふうに考えてございます。

また、特産品開発の関係で、地元産品を活用して加工、製造、販売が農業の活性につながるかというご質問だったのですけれども、こちらは確かに議員ご指摘のとおり、今ある地元産品を活用して加工、製造、販売につなげていくことが農業の活性化につながるとい

うふうに考えております。壮瞥町は、先ほども申しましたとおり、多くの農産物がありますので、アイデアの幅は広いと思われれます。ただ、商品の加工、製造、販売は、かなりの手間暇と経費というのがかかかりますので、誰もが簡単に手がけられるというものではないというのが現状であります。できれば加工、製造、販売を専門に行う組織、先ほど地域商社という話も出たのですけれども、そういった専門に行う組織がありまして、農業者はそこに出荷するという仕組みができ、さらに特産品、加工品の原料となる農産物をできるだけ高く買ってもらうことができれば、さらに農業振興が図られまして活性化につながっていくのではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 具体的な作物、特産品につながっている作物でいえば果樹類のリンゴやブドウ、それから梅やサクランボ等を活用した特産品を開発していくことが例えば農家経済に好影響を与えるということであれば、積極的に果樹栽培振興につなげる施策の展開も必要であると思われれますし、最近よく言われているのが畜産関係では和牛牛肉の相場が好調であると。我が町の場合、奥洞爺牛をブランドとしたブランド肉の確立も必要ではあると思うのですが、例えば町が27年度で開発した牛肉を活用したレトルトビーフシチュー、それからレトルトカレーを特産品として振興していくということであれば、畜産振興にもつながる具体的な施策を行う必要があるのではないかと。

そこでまず、分けて質問いたしますけれども、特産品開発につながる果樹類の栽培拡大等の果樹農家育成振興策を進める考え方があるかどうかという部分についてお伺いします。

○議長（松本 勉君） 答弁、経済環境課長。

○経済環境課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

まず最初に、積極的に果樹栽培振興につながる施策の展開というご質問だったのですけれども、果樹でいえば今リンゴを使ったシードルがとても好評ということなのですけれども、その原料となるリンゴを確保するということが必要となってきます。今は生食用のリンゴを各農家から集めて必要量を確保しているという状況なのですけれども、今後の方向としましては、原料確保ということから加工用のリンゴの作付をふやすようなことも検討できるのではないかなというふうに考えてございます。積極的な施策の展開ということでは、果樹の栽培であれば果樹は植えてから収穫できるまで数年かかるということがありますので、収穫できるまでの期間の支援などを考えるのも一つかなというふうに考えてございます。

また、畜産振興につながる具体的な施策の展開というお話もあつたのですけれども、畜産関係では、議員ご指摘のとおり、肉用牛の市場では現在高値での取引がされているというふうに聞いてございます。畜産振興ということでは、畜産農家において今後現状の高値取引を踏まえて飼育頭数をふやす可能性があるということで、町の畜産振興会の関係者の方からそういうことを聞いてございます。町としましては、畜産振興対策として今現在牧

場運営ですとか草地基盤整備を行っております。今後今以上の新たな施策展開ということは今は予定はしておりませんが、現状の牧場運営、草地基盤整備を継続して、引き続き畜産振興を図っていきたいというふうに考えてございます。

それで、ご質問にありました特産品につながる果樹の栽培拡大ということだったのですが、果樹類を使つての特産品の開発となりますと、例えばアイスであったりですとかジャムであったり、開発の幅はとても広いのだらうなというふうに考えております。ただ、特産品開発にはある程度の収量が必要で、それにはある程度の土地の規模が必要となります。果樹の栽培拡大ですとか果樹農家育成などの施策は、大変重要なことなのですが、まず各農業者が希望するというか、望む経営規模を実現させることが重要かなというふうに考えてございます。今現在農家さんで規模を拡大したい人、規模を縮小したい人、または離農したいというような方など、各農業者の意向調査を実施している最中でありますので、その結果を踏まえて、経営を拡大したい農業者の方にうまく農地を集約できるように働き、その上で農業者が希望する品目を栽培し、希望する量が収穫できるようにしなければいいなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 確認なのですが、先ほど畜産振興についても積極的な施策を展開していくということですが、この中で実は町営牧場2カ所ございまして、非常に利用率が下がっている。2カ所あるうちの1カ所については、利用率が下がっているということも聞いているのですが、立香牧場、それと上久保内牧場は牛がかなりの頭数入っているということは聞いているのですが、草地の確保という部分でこれは管理するのは今後も継続されていくかという部分についてお伺いしたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、経済環境課長。

○経済環境課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

町営牧場の今後のあり方ということのご質問だったのですが、現在町営牧場は、議員おっしゃるとおり、上久保内と立香の2カ所ありまして、上久保内のほうでは牛を放牧しておりますし、立香のほうでは馬を放牧しております。牧場の整備としましては、中山間事業というものを活用しまして、平成17年度から21年度にかけては上久保内牧場を整備しておりますし、22年度から26年度までは立香牧場を整備をいたしました。今年度の利用状況としましては、立香牧場は町内の利用者というのはいなくて、町外の利用者が1件で、馬5頭を放牧しております。上久保内牧場のほうにつきましては、町内の方が5件、町外の方が1件ということで、全体で牛30頭の放牧をしております。

特に立香牧場におきましては、今後のあり方が問われるところではあるかもしれないのですが、町の牧野委員会、牧場の利用者さんなのですが、町の牧野委員会のほうからは今後畜産は伸びることが考えられるし、今まで中山間事業で草地更新事業を実施しておりまして、特に立香牧場なんかは牧場としては今非常にいい状態にあるというこ

とで、今後も残してもらいたいという要望もありますし、また補助事業が終了してから間もないということもありますので、しばらくはこのまま両牧場とも維持管理していきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） それでは、3点目、農商工連携の課題と今後の展開という部分についてお伺いしたいと思います。

農業生産力の維持が課題という認識という、これは持つておられると。それはそのとおりだと思います。ただ、農産物価格の低迷が農家経済に影響を与えて、離農、それから農業者の高齢化、さらにこれらが担い手不足に拍車をかけていると。農業生産力の低下につながっているということは、当然そういう状況だと思うのですけれども、町長が日ごろ言われるもうかる農業につながるような具体的な施策の展開や仕組みづくりは、これはまた重要な問題であるだろうと。これは、農業後継者や新規就農者に農業に対する希望を与えて、将来性を見出して地域農業を支える原動力になっていくのではないかと思われるわけです。それで、高齢者が農業に長く携わっていくことができる生産体制の確立も必要だと思いますが、この辺についての考え方お伺いしたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、経済環境課長。

○経済環境課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

農業生産力の維持ということでは、議員ご指摘のとおり、離農や農業者の高齢化などで担い手が減少することにより農業生産力が低下に向かうことが懸念されるというところでございます。ただ、昨年実施しました農業者へのアンケートでは、離農や規模縮小を考えている農業者がいる一方で、規模を拡大したいと考えている農業者も一定程度いるという結果が出ております。先ほどもちょっと答弁させていただいたのですけれども、現在全ての農業者を対象に将来のどうするかというような意向調査を実施しておりますので、その結果を踏まえ、規模を縮小したい農業者の農地を規模を拡大したい農業者へ集約することにより、農地の有効利用を図って農業生産力の維持を図りたいと考えております。その上で、議員が指摘するもうかる農業につながるような施策の展開、所得が向上するような仕組みというものを検討していきたいなと考えてございます。

また、もう一点、高齢者の関係だったのですけれども、高齢者の農業につきましては、今その具体案を持ち合わせているということではないのですけれども、小規模な経営でも確実に収入になるような例えば道の駅での直売ですとか、あとは北の湖記念館などの施設での販売など、そういうようなことが今後検討できればいいなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（松本 勉君） 町長。

○町長（佐藤秀敏君） 農業振興というお話もございましたけれども、本町の農業におき

まして平成4年当時は大体農業の総生産額が20億円を超えるような生産力でありましたけれども、その後の農業経済等々の関係で、また農家の若い方々が都会に出て働く、そういった状況の中で年々離農される方、あるいは担い手がいない方等々やはり農業人口が減っておりますし、また壮瞥町のような地勢は傾斜地が非常に多くて、面積も減少してまいりました。そういった傾斜地での営農が難しいということで農地も減少してきましたから、現在においては約13億に届くか、届かない程度の農業生産力でありますので、やはり農家経済というのは大変厳しいものがあるかなというふうに見ております。

その中で、平成24年から農業の生産を高める意味で、生産性向上対策事業など高齢になっても農家ができるようにハウス等の施設への投資をしていただいて、そしていつまでも農家が続けていけるような施策を展開してまいりましたけれども、いかんせんなかなか投資農家の皆さんもそれに投資をするということも極めて困難な昨今かなというふうに認識しております。まだまだ農家への支援というのは必要かなというふうに思っておりますけれども、やはり農家の皆さんそれぞれ個々経営者ということでございますので、それぞれの考え方がございます。今回特産品開発事業の支援も全ての農家の皆さんがそれに取り組めるかという、それはなかなか難しい課題がたくさんあるかなというふうに思っております。そういった中で、今回農商工連携推進委員会等も設置していただいて、今後もこういった壮瞥町でとれた多種多品目の農産物を加工して、付加価値を高めて、今後販売をしていければ壮瞥町の農業振興にもつながっていくだろうという考え方も持っておりますし、壮瞥町には多くの観光客が来ていただいておりますので、そういった観光客の消費額を高める意味でもこういった事業の取り組みが必要でないかなというふうに思っております。

議員ご指摘のようにやはりPRをして、多くの人口がいます都市への販売ということもそれは今後想定していかなければならぬというふうに思っておりますけれども、そこまでいくのにもかなりの努力と時間等がいろいろあるかなというふうに思っておりますので、じっくりと地道に先ほど申し上げたように今後もこれに取り組んでいければというふうに思っております。これは行政だけが取り組むということではなくして、先ほど地域商社という答弁もしておりましたけれども、そういった組織化をして、こういった取り組みをしていただいて、この壮瞥町の基幹産業である農業、そして観光、商業の底上げを少しでもお手伝いできればなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○議長（松本 勉君） これより休憩に入ります。再開は11時10分といたします。

休憩 午前11時02分

再開 午前11時10分

○議長（松本 勉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 先ほどの答弁の中で、加工施設の課題という部分についての答弁がございました。これもそのとおりだと思います。ただ、これも先ほども述べておりました

たけれども、コストが高いもので売れる商品につながっていないのではないかという考え方を私は持っております。ただ、仮に地元企業を呼び込むといいますか、その場合に採算性の問題ですとか、なかなか勇気を持って飛び込んでくる企業はないのかなと思います。ただ、町内農産品の優位性でありますとか売り込み、それから特産品化につながる加工品の内容によっては、場合によっては自前での加工技術者の育成も必要になるということを実は感じております。というのは、池田町がワイン醸造という部分に取り組んだときは、そういう技術者を町が育成したという例もございますけれども、そのような課題の解決に向けた考え方があるのか、ないのかという部分についてお伺いします。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

加工施設につきましては、先ほどご答弁しました課題の解決になることはもとより、原料の調達から加工、商品化まで一貫して町内で行われるということになれば、壮警町産ということをよりアピールすることができ、特産品の価値を高めることにつながるということも認識しております。ただ、議員のおっしゃるとおり、町外から企業を誘致するなどというのは、新しく土地を求めたり、施設を整備するというのは非常にハードルの高い問題であると認識しております。こういった問題解決のためには、あいている町有施設ですとか、それからあいている町有地などの活用、こういったものの可能性を探っていきたいと考えております。

また、町内の事業者であったり、それから先ほどありました地域商社の取り組みを行うような事業者であったり、こういう方々が町内の加工にチャレンジしていくというような、そういった機会を生み出すといいますか、そういった刺激策というのも必要ではないかと考えております。さらにおっしゃるとおり、例えばワイン醸造、シードルも同じですけれども、こういったものの醸造所をつくるには一定期間の技術者の研修期間ということが必要でありまして、今すぐそれを支援するということは申し上げることはできないですけれども、取り組んでいる方たちといろいろ協議を重ねながら、今後の支援の方法等を考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） 今の部分については、十分理解できるところで、大体想像の範囲といいますか、想像の範囲の答弁であったということは認識しております。

それで、私なりに農商連携の課題という部分について実は考えてみた部分がございます。現在本町の農産物を使用した特産品開発というのは、特産品開発支援事業制度と農商工連携事業支援制度の2つがあると。ただ、大きな観点で見れば、参加している補助対象者といいますか、補助対象者は実は余り大きなリスクを背負わないで参加しているのではないのかなと思われるわけです。誰もリスクがあるものには参加しない、これは当然だと思うのですが、言いかえれば特産品開発という部分にかかわる覚悟が足りないのでは

ないかと思うわけです。ただ、農業者が直接特産品開発に参加する、特産品開発を行うということであれば、これは農業者は自分の経営といいますか、経営の範囲の中、ですから自分たちが利益を得るために必死になって頑張るわけです。ですから、農業者の場合は特産品開発に取り組む姿勢というのは真剣であるだろうと思います。

そこで、提案でございますけれども、今まで確かに特産品開発と農商工連携支援事業というのはあるのですけれども、農業者を対象とした特産品、商品開発に必要な施設整備、それから機械器具の整備を支援する農業の6次産業化支援制度といいますか、そういうものがあったらいいだろうと。確かに今の制度の中でのやりくりはできるのかなという感じはちょっとするのですけれども、農業者というのは自分の農業経営の中でその事業を成功させるために必至で取り組むわけですから、そういう部分である程度大きな補助制度といいますか、それは恐らく起業化支援なんかにもつながっていくのかなと思うわけですが、そういう6次産業化支援制度、農家を対象にしたそういう制度を設ける考え方があるか、ないかについてお伺いしたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（齊藤英俊君） ご答弁申し上げます。

6次化の補助事業メニューといいますのは、結構今国ですとか道、それから民間の金融機関でもファンドを創設するなどさまざまな補助メニューがあるという状況になってきております。ただ、それが壮瞥町で行うということにおいて、例えば規模が大きなものが対象であったり、そういったいろいろなハードルがありまして、必ずしも使いやすい制度でないという部分もあります。そういった意味では、そういった部分を補完するような補助事業というのを町で創設等を検討するというのは、一つの方向であると考えられます。

それから、もう一つは、6次化といいますと生産現場から加工、販売までトータルでということになってきますが、例えばそういったフルセットの事業ではなく、今いろいろな方々と話していると農産物の1次加工、例えばカボチャですとペーストにした状態、リンゴですと搾汁してジュースにした状態、こういった1次加工だけでもいろいろな可能性が出てくる。商売の可能性が出てくる、それから利益を得られるというような話も聞いております。

いずれにしても、現在そういったさまざまな情報をいろいろ検討しつつ、これから6次化の制度なりを考えていくことになろうかと思いますが、まず当面はそういったものを考えつつもこういった加工等にチャレンジしていただく需要を地道に掘り出していき、喚起していくという活動に力を注いでいく時期ではないかと考えておまして、そういった努力を続けていきたいと思っております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 経済環境課長。

○経済環境課長（阿部正一君） 私のほうからもご答弁申し上げたいと思います。

今商工観光課長からも答弁があったのですけれども、議員ご指摘のとおり、農業者が6

次産業化で商品の加工、製造、販売を手がけるということは、相当な覚悟を持って取り組んでいるというのは確かにそうなのかなというふうに思うところであります。先ほどの繰り返しになってしまうのですけれども、商品の加工、製造、さらに販売となると手間暇ですとか技術や設備も必要となりますし、経費もかかるということがあって、誰もが簡単に手が出せるものではないというふうに考えております。ただ、6次化をうまく軌道に乗せることができれば、簡単ではないとは思いますが、もしうまく乗せることができれば付加価値をつけることもできますし、農家の収入増加につなげることもできるのかなと思っております。

そういうことで議員ご提案の6次産業化支援制度ということでは、先ほど商工観光課長からの答弁にもありましたけれども、今は経済環境課としても具体的な案というのは持ち合わせてはいないのですけれども、どんな支援ができるかというところから調査というか、研究といいますか、検討、研究をしたいなというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（松本 勉君） 4番、森太郎君。

○4番（森 太郎君） これは、できるだけ効果的な制度を研究していただければいいのかなと思っております。

それと、先ほど答弁の中で農商工連携推進委員会の説明ありましたが、構成員としては商工会、農協、農業委員会、観光協会、道の駅の方々が参加していると。ただ、何となく感じるのは、農業者の生の声が入っているのかなという部分、ですからできるだけ広くその辺の声を吸い上げるような形で農商工連携推進委員会が効果的に機能するような形をとっていただければと思っております。

最後になりますけれども、本町の特産品開発というのは優良な農産品の生産が中心になるわけですから、町長先ほどもちらっと触れておられましたけれども、ぜひもうかる農業につながる効果的施策を打ち出していただいて、有望な特産品開発支援に取り組んでいただくことを希望して、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、町長。

○町長（佐藤秀敏君） 農業振興にもつながるかなというふうに思いますけれども、先ほども状況等についてはお話しさせていただきましたけれども、農産品の特産品といいますとやはり壮瞥ではリンゴ、果樹が道内においても壮瞥町の本当の特産品かなというふうに思っております。今後もそういった農産物の特産品につながっていけるような農家への誘導もしていければなというふうに思います。例えば今壮瞥ではピーマンが非常に生産されておりますし、また観光ではリンゴのほかにもイチゴ、今回暴風でハウスが本当に大変被害を受けて、イチゴを生産されている方も非常に大変な被害を受けて、今後どうしようかという悩んでいる方もいらっしゃるわけでありまして、そういったものもございまして、あるいはオロフレのトマト、これは北海道では冬場の第1番目に市場に出るトマトというふうに聞いておりますけれども、その味等々も含めてもっと研究して、皆さんに

協力していければなというふうに思っておりますし、また先ほど質問の中に魅力ある農業ということで、もうかる農業を僕も提唱しているわけですが、議員からのご指摘ありますけれども、まだまだ自分としての農家へのアピールといたしまして、そういったものが生産性向上対策事業においても足りなかったのではないかなというふうな反省もしておりますので、今後は積極的に壮瞥町の農家の皆さんがそういったところに、例えば特産品の開発事業においても取り組んでいけるような声かけをしていきたいなというふうに思いますし、先ほど農商工連携でリスクというお話がありましたけれども、決して皆さんリスクをしょうわないでそれに取り組んでいるというふうには実は僕は見ていないので、やはり皆さんそれぞれ出資もしていらっしゃるといふふうに聞いておりますし、また視察等もして研究をして、これを今後どう継続的に進めていくかということも取り組まれる、今後取り組んでいくというお話聞いておりますので、その辺はご理解いただければというふうに思っております。町といたしましても、やはり主体になるのは民間ですし、農家ですし、商工観光業者の皆さんでありますので、それを行政がどうやって応援していくかということがこれから我々が取り組んでいくことが大事なというふうに思っておりますので、なかなかこれをやります、あれをやりますというようなことにはならないかもしれませんが、少しでも農家経済がよくなるような取り組みについて皆さん方のご意見等もいただきながら、これに取り組んでいきたいというふうに思いますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

○議長（松本 勉君） 次に、1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） 平成29年第2回定例会開催に当たり、広報広聴活動の現状について質疑を交わしたく考え、以下の6点について最初に伺います。

今日行政の中で大切にしなければならない一つに広報活動と広聴活動があります。この点については、壮瞥町は取り組んでおりますけれども、私は平成27年第3回定例会の一般質問でホームページの望ましいあり方と活用、広報活動のあり方について質疑を交わしましたが、その後の取り組み状況を確認したいと思います。

1点目、現在も町勢要覧がホームページに掲載されていますが、その後の掲載内容はどの程度改訂、改善されたか。

2点目、町のホームページを戦略的に活用できるようなページにしていきたいとの答弁があり、1年半が経過していますが、ホームページでどのような戦略的活用に取り組んだか、その内容と成果、評価について伺います。

3番目、ホームページの運用体制と運用管理基準についての取り組み、その内容と成果、評価について伺います。

4番目、町広報とホームページのカレンダーの掲載基準内容は、どのようになっているか。

5番目、広聴活動も大切な一つでありますけれども、平成28年度は地域懇談会を開催できなかったが、開催できなかった、しなかった要因は何か。町政を進める上で地域懇談会

開催についてどのように位置づけているか。

6 番目、平成 29 年度の地域懇談会開催について開催時期を含めどのように考えているか。

以上の点について質問し、答弁をいただいた後質疑を交わしたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（松本 勉君） 答弁、町長。

○町長（佐藤秀敏君） 1 番、佐藤議員のご質問にご答弁申し上げます。

1 点目の町勢要覧の改訂についてですが、平成 27 年第 3 回定例会の一般質問においてご答弁したとおり、改訂には相応の費用が発生すること、また今後の町勢要覧の活用は基本的に縮小し、その役割をホームページのほうに移していく考えであったことを踏まえ、その後改訂は特に行っておりませんので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、2 点目のホームページの戦略的活用についてですが、平成 27 年度に行政情報と観光情報ページのリニューアル及び移住情報ページの新設を行い、スマートフォン対応型の導入や 3 つのページを行き来しやすい構成にするなどの利便性向上を図る一方、戦略的活用の一例として、本町の魅力を雑誌のように見て読んで知っていただき、移住等を考えている方々への訴求力を高めることを目的として、「まちの紹介」ページや先輩移住者のドキュメンタリー「壮瞥、ひと物語。」なども新設し、同時に 1 点目の町勢要覧の役割も持たせています。さらに、昨年度からはフェイスブックやインスタグラムなどの SNS、ソーシャルネットワークサービスも併設して相乗効果の創出を図っており、特にフェイスブックは開設 1 年足らずで自治体のページとしては全国トップクラスの登録者数となるなど、着実に成果が上がっていると評価しております。

次に、3 点目のホームページの運用体制と運用管理基準についてですが、昨年度に庁内の運用ガイドラインを策定し、各課の担当職員の選任及び説明会の開催などを行いながら全庁的な体制づくりに取り組んでおりますが、何分情報発信に対する全職員の意識づけの強化には一定の時間を要することから、今後も継続してこれらの取り組みの浸透を図っていく必要があると考えております。

次に、4 点目の町広報とホームページのカレンダーの掲載基準についてですが、昨年の決算審査特別委員会でもご答弁したとおり、双方とも町などが主催する公共的な事業を中心に掲載しているところですが、その際に議員から事業の一部が掲載漏れしているのご指摘をいただいたことを踏まえ、昨年 10 月より町広報カレンダーの原稿の制作段階で各事業所管課による校正作業も新たに追加し、掲載漏れを防止するよう改善を加えていることを申し添えます。

最後に、5 点目の昨年度に町政懇談会を開催しなかった要因と町政懇談会の位置づけ及び 6 点目の本年度の開催予定についてですが、近年開催自治会や参加数が激減傾向にあったことを踏まえ、昨年度は従前の各地域の課題についての懇談以外にも町側から特定のテーマを提示して、意見交換を行うなどの改善を加えて開催する予定でしたが、予定してい

たテーマ内容に関する内部検討や調整がおくれ、町民の皆さんにご提示できるレベルに至らなかったため開催を見送る結果となりました。しかし、町政懇談会は、町民の皆さんの生の声を聞く貴重な機会であることから、本年度は庁内で現在検討している第5次行政改革実施計画案などをテーマとして秋以降に開催する予定でありますので、議員のより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、ご答弁といたします。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） 答弁をいただきましたので、これからそれぞれの答弁内容について質疑を交わしたいと思います。

最初に、町勢要覧について伺います。現在の町勢要覧のホームページでの位置づけは、「まちの紹介」、「町の概要」から町勢要覧にたどり着きます。その町勢要覧の最初のページに、町民の思いが壮瞥町の未来をつくるとの町長の巻頭の言葉があり、その終わりのほうに本要覧は壮瞥町の現状の概要をお伝えするものです。本町を理解していただく手引きとしてごらんくださいと、そのように書かれております。27年の第3回定例会の質疑の際にも次のような答弁いただいております。私の冒頭の町勢要覧の中に壮瞥町の現況の概要をお伝えするというふうに私自身も書いておりますので、そこは真摯に受けとめて、古い写真等につきましてはこれから徐々に新しいものに更新していきたいというふうに思っていますとの答弁をいただきました。しかし、現実はそのではありません。前回も今回の答弁も改訂に相応の費用が発生すること、また町勢要覧活用は基本的に縮小していくとの答弁がありましたし、私はここでその後改訂がしていないので、相応の経費については答えは求めませんけれども、このホームページを作成し、運営する必要経費は年間どの程度かかっているのかを最初に伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

ホームページの年間の運営経費ということでございますが、壮瞥町行政と移住サイト、移住情報に関してはおおむね150万ぐらい、それからちょっと質問と違うかもしれませんが、同時につくった観光協会のほうについては大体70万弱だったというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） わかりました。

そのように多くのお金をかけてつくっている。そして、壮瞥町の現況を理解してくださいというような言葉も書いてあるにもかかわらず、その内容を見た場合に少し考えるべきでないかなど。町勢要覧の活用を縮小していく、私はこれは賛成です。今のような形の町勢要覧を公にしているということは、私は現況を正しく知らせていないのではないかとこのように感じておりますし、そういう面で例えば前回の27年の第3回定例会の中でも細々と申し上げました。何だ、重箱の隅をつつくような形でないかというようにとられたかも

しれませんけれども、やはり載せるからには現状をきちっと理解してもらうようなことが私は必要でないかな、そのようなことです。ですから、現在のホームページが対外的に公表している、そして壮瞥町の現状を理解して知ってくださいということを行っているからにはもう少し考えてもいいのではないだろうか。写真なども、私はそういう技術的なことはわかりませんが、ホームページの写真を入れかえるだとか、文章の間違いを直すということは、業者でなければ委託しなければならないものかどうかについても確認したいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

まず、最後にご質問いただきましたホームページのメンテナンスの方法でございますが、これはページによりましてちょっとやり方が変わります。かなり高度な技術を要するものであれば、先ほど言った運営委託費の中で業者さんのほうにご対応いただきますし、軽微なものであれば町の担当者が直接更新をして、アップをしているというところでございます。

全般に町勢要覧全体のことでございますが、確かに 27 年第 3 回定例会でいろいろ情報といいたまいますか、そういったものが古いのではないかとご指摘をいただいております。その際にもご答弁をしましたが、こちらの町勢要覧の場合にはこれは完全業者のほうで構成から何から全てをやるので、写真 1 枚取りかえるのでも全て経費を払って委託をして、業者のほうで作成をしていただくということになります。必然的にお金がかかってしまうということと、その際にもお話ししたとおり基本的にこのウェブサイト、ホームページをリニューアルに当たって、町勢要覧の持つ役割はホームページのほうに移管をしていこうと。したがって、町勢要覧については、いろいろ思いもあろうかと思いますが、基本的には縮小していくという考え方ですということでご答弁をしまして、その後の考え方も変わっておりません。ですので、ご指摘いただいたように現況の概要ではないのではないかとというような誤解を招くおそれは確かにございますので、ホームページ上にそのような記載、注釈をつけるか、ないしはそれでも問題があるということであれば、残念ではありますが、ホームページのほうから削除するというのも踏まえて対応を検討したいというふうに思います。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1 番、佐藤恣君。

○1 番（佐藤 恣君） 私は、町として公にホームページに載せるのであれば、正しい情報といえますか、きちっとしたものを載せるべきでないかなと。それが経済的に無理だと、財政的に無理だというのであれば論外ですけども、私は正しい情報をぜひあのように三十数ページにわたってのものでなくても、私はこの質問するに先立って管内だとか道内の市町村の町勢要覧について調べてみましたけれども、やはり縮小現象といえますか、A 3、2 枚を折り込んだ形の簡単な現状を知らせているものに変わりつつあります。ですから、

現状を正しく伝えるということに私は努力していただきたいな、それが業者に頼まなくても職員の皆さんの力でできればなど、そんな期待を持っております。

そこで、2点目に移りたいと思います。2点目のホームページの戦略的活用について伺います。従来から見て確かに見やすくなりました。私は、そんな評価する立場ではありませんけれども、このホームページは関連性を追っていくとたどり着く本当にわかりやすいものになってきているのですけれども、高齢化の進む実態を見ると、そのようなホームページでいろんな町を紹介したりしたものを町民の皆さんにも知っていただきたいなということを考えているのです。そういう面で、町民の皆さんが高齢者がパソコンだとかいろんな機器を使って見ることは、現状としては余りできないような状況でないかと思えます。そういう中で、出ているものをコピーをして、例えば町内には4カ所の温泉施設があります。その掲示板に今ホームページではこんなことを町外の方にPRだとか紹介していますよと、そういうものを張り出して、現在の町の様子だとか取り組みを知ってもらうことが町政に対する関心の高まりにつながってくるのでないかと考えております。そういう面で、このようなことは現実的に可能かどうか。私は、よく機械のことわかりませんので、質問するのですけれども、このことはどのように考えるか伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

議員ご指摘のとおり、確かにホームページをつくったということで、では全ての全町民がそれを見ているかと言われると、当然そうではないだろうというふうにも認識しております。ただ、現実論として、ホームページの内容が全てを広報に載せているわけではありませんが、ある程度その必要性のあるタイムリーな情報については広報に載せて、町内の皆さんにも紙ベースで配布をして情報共有がなされるように努めているところでございますので、技術的にホームページにあるものをプリントして掲示をする、あるいは設置をするということではできないことではもちろんないのですが、たしか27年にもそれに近いようなご質問をいただいて、私どもとしては担当課としては合理性をちょっとそこには感じ得ませんということで、対応は基本的にはしない方向で考えますということをご答弁しておりましたが、今回についてもおおむね同様の考え方でございますので、あえて紙で掲示をしてということは現段階では考えていないということでございます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） 町の考えはわかりました。私は、町が町外の皆さんに対してどのようなことを発信しているか、町をどのように紹介しているだとか取り組みを知らせる一つの方法として今やっていると思えますけれども、町民の皆さんも関心を持ってもらう上には私は必要だと思えますが、必要性を感じないのであればいたし方ないと思えます。

次に申し上げたいのは、例えばホームページの中の「行政・産業情報一覧」の中に「政策・計画」という欄があります。それを開いてみますと、まちづくり総合計画から壮瞥町

国民保護計画まで本編だとか概要版などを含めて 37 の計画がアップされております。ホームページに出ております。この 37 の計画等は、総ページ数にしますと、私の計算間違いがあるかもしれませんが、1,457 ページになっております。最近のものを拾い上げてみますと、4月7日に第5次壮警町行政改革についてとして、第5次壮警町行政改革大綱が掲載されました。そこで、私はできるだけそれを開いて見るようにしているのですが、ここに載せている狙い、ホームページで37、そして開いて見てくださいという形であるのですが、まずここに載せている狙いといいますか、目標といいますか、それはどこにあるのでしょうか。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

政策ですとか計画に限った話ではないのですけれども、基本的にウェブサイト、ホームページ上で調べたいと、あるいは中身を見たいという方があえて郵送ですとか、あるいは役場にとりに来たりとかということがなくても見れるようにという目的で掲載をしております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） わかりました。

必要な方は役場に行ったらということだと思いますけれども、そこで例えばことは1977年の有珠山噴火から40年目を迎えます。いろいろなところで、町もそうでしょうけれども、この8月7日にはいろいろな災害に対する行事が持たれるように聞いておりますけれども、例えば28年3月に私は、その以前ですけれども、この地域防災計画についてどうなっているのだということで質問して、28年3月に長い期間をかけて策定した壮警町地域防災計画があります。この概要版だけで32ページ、計画編で253ページ、資料編で117ページです。そういうものができたのですけれども、町の一つの方針として火山との共生という言葉をよく使われております。そういう上からもこのような地域防災計画が住民の皆さんの身近なところにあり、それが目に触れるようなことが必要でないかなといつも考えているのです。そういう面で、このような各種計画きちっと印刷所で印刷して配布される部分もあるし、そうでないものもあります。先ほど言ったようにホームページのところを見ると、私の数え間違いがなければ37があります。そういうものを町民の皆さんが目に触れるようなもの、そういうことが必要でないか。そこで、教育委員会が管理運営している山美湖の図書室、これは私は管内でも、また道内でも誇れるのでないかなと。というのは、行政資料があるのです。というのは、昔は私は議会に出る前に議会議事録を見せてくださいと言ったら申請しなさいということだったのです。けれども、今は、時期はちょっとずれますけれども、図書室に行くとそういう議事録を見ることができる。また、例規集も見ることができるのです。そのように私は開かれたまちづくりをしているのでないかなと思うのです。そういう面で、私はこのようないろいろな各種計画を行政資料として1カ

所にまとめて、町民の皆さんがいつも見れるような体制をつくっていくことが必要でないかなと考えております。そうすることによって一歩でも二歩でも私は前に進むことができるのでないか。ですから、町民の皆さんの関心を高めるためにもそのような取り組みはできないのかなと考えているのですけれども、どのようにお考えになるか伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 暫時休憩といたします。

休憩 午前11時53分

再開 午前11時54分

○議長（松本 勉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

先ほど来からホームページの状況を紙で出して掲示してはということについては、ちょっと合理性を感じないというお話をさせていただいておりましたが、それは日々更新されるものを随時出していくというのはいかがかと、そこまではというような意図での答弁でございまして、ただいまご質問をいただいた、ご提案をいただいた計画等は、何年かに1回、あるいは毎年つくるその計画等を住民の皆さんが見やすいように特定の場所に設置をするということに関しては、決して否定するものではございませんので、実際に置くとすれば多分山美湖のいずれかの場所がいいのかなというふうにも思いますので、そこは教育委員会のほうと調整をさせていただいた上で最終的に判断しますが、できれば前向きに取り組んでいきたいなというふう考えております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） わかりました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

そこで、3点目のホームページの運用体制と運用管理基準について答弁をいただきました。このことについても私は27年の第3回定例会で質問しております。それで、28年度に運用ガイドラインを策定したとの答弁がありましたけれども、そのガイドラインの骨子、全体でなくて大まかなところをもしも手元に資料があれば説明願ひたいと思ひます。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

運用ガイドラインにつきましては、昨年の秋ごろに策定をしております。主たる目的が従前は担当課のみでホームページの運営管理をやって更新作業をしていたのですが、それを情報の内容によっては各担当課、所管課のほうで直接的に対応ができるように、そういうふうには運営を改正するに当たってこのホームページを更新するときの注意事項であったりとかルールであったりとか、そういったものを記載しています。具体的に言うと、まず情報の分類、どういう情報は担当課がやる、どういう情報は各課がやるというふうなルー

ル分けですとか、あるいはホームページ運営に当たって一番注意しなければならないのが著作権であったりとか肖像権であったりとか、そういったもののルールといいたまうか、注意点であったり、あるいは全体的に統一性のあるホームページを維持しなければなりませんので、表現であったりとか、掲載するファイルの制作の手法といいたまうか、そういったマニュアル的なものも含めてガイドラインを設定し、説明会を開催し、各課の担当職員のほうと共有をさせていただいたということでございます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） わかりました。そういう運用管理基準きちっとして取り組むことによって、よりよい情報提供ができるのではないかと私は思いますので、ぜひ継続してほしいと思います

そこで、現在開会されているこの第2回定例会の様子をインターネットで見ている方もいらっしゃると思います。しかし、見たくても仕事中で、外に出て仕事をしているから見れないという方もいらっしゃると思います。その方が夜、夕食後きょうの第2回定例会の一般質問でもいいし、議案説明でもいい、どんなことがあったのかとしてそれを見ようとしても、今までの例を見ますとその日の夜には見れないのです。そういう現実があるのです。といいますのは、見れるようにするために中継録画をセットするのに相当時間がかかるのかどうかわかりませんが、私はこのように一般質問をしたときにどんな質問内容で、どんな答弁をいただいたかということを確認するためにそれを見ようとしても見れないのです。そして、議会事務局に行って話したり、または担当のほうに行って話すると、その日のうちに見ることができるのです。ですから、そういうようにこのような議会の中継録画、それを短時間のうちに町民の皆さんが見れるような体制をつくる必要でないかと私は思うのですけれども、これには相当時間だとかそういうものにかかるのでしょうか。

○議長（松本 勉君） これより昼食休憩といたします。再開は午後1時といたします。
休憩 午後 0時00分

再開 午後 1時00分

○議長（松本 勉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続いたします。

答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

議会のインターネット中継について日ごとにその録画を掲載できないかというような質問だったかと思いますが、現状では会期が終了した後に2日間なり、複数日間の分をまとめてアップをしているというような運用をしていたのですが、先ほどそのようなニーズがあるということでご意見をいただきましたので、技術的にできないことではございませ

るので、できる限りそのように対応していきたいと思いますが、ただ残念ながら職員の体制的な問題もありまして、必ずそれが履行できるかと言われると、その日によってはできない場合もありますので、できる限りその日のうちにアップするように心がけてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） わかりました。無理なことは申しませんが、町民の皆さんは時間を割いて議会の傍聴に来るといことはなかなか難しい。そして、傍聴が余り多くないのは、インターネットで見ているからでないかという評価もありますので、来れない人のために今答弁いただいた形で善処していただきたいなと思います。

そこで、次に移りたいと思いますが、4点目の町広報とホームページのカレンダーの掲載基準、これについては私も前に言ったような覚えがあるのですが、先ほどの答弁をお聞きしますと28年10月から見直して、各事業所管課と連携しながらカレンダーをつくっているということで、取り組んでいる姿勢がわかりました。といいますのは、私がこのような質問をなぜここで出したかという、この第2回定例会の一般質問の締め切りを前にして、私はいろいろと調べてみたのです。そうしますと、例えば5月12日に町主催の自治会長会議がありました。この協議は、連合自治会と町のほうと協議しながら、5月12日に設定しましょうねということで、金曜日でしたけれども、設定したのです。けれども、実際にふたをあけてみると、これは4月の18日前後だったと思いますけれども、そういう形で協議したのですけれども、5月のカレンダーには町主催のそういう中身入っていないのです。

それから、例えば5月から6月にかけては、町内の学校の運動会シーズンです。そこで、これも一つあったのですけれども、私はその日いなかったもので、その日に中学校の体育祭が行われたかどうか承知しておりませんが、私の聞いているところでは5月の28日に中学校の体育祭が行われるということを聞いておりました。けれども、5月のカレンダーには中学校の体育祭が入っていないのです。ですから、細心の注意を払っても抜けることはあると思いますけれども、今後連携を密にしてカレンダーの作成、これを心がけていただきたいな、そんな気がしてなりません。

28年10月から関係課で協議しながらつくっているということで前向きの答弁をいただきましたので、それはそれとしてこれ以上答弁は求めませんが、3点目と4点目共通して言えることについて指摘したいと思います。それは、質問で一般質問だとか議案質疑の中でいろいろ意見出します。そうすると、それに基づいて例えば28年10月に関係機関で協議を持つようなシステムをつくった。それが私きょうというか、この一般質問するまで町でどのような体制とっていたかということわからなかったのです。ですから、そのように取り組んだら担当者のほうからこの前の質問あったことはこのように取り組んだよと教えていただければ、私はこのような質問しなかったのです。そのようなちょっとした

心配りが私は欲しかったなど、そんな気がしてなりません。そんなことを要望して、次の5点目と6点目に移りたいと思います。

28年度に地域懇談会を開催しなかった要因として、答弁にもありましたが、近年開催自治会や参加者が少ないことを挙げておりますが、なぜ開催希望自治会や参加者が少なくなったかということをごどのように考えているか。行政としてどのように考えているかももう少し説明をいただきたいと思うのですけれども、ただ単に開催希望自治会が少ないだとか参加者が少なくなったということだけを挙げるのであれば、どうしてだろうということをお考えのことありますか。それについてお答え願いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

ご意見にあるように町政懇談会につきましては、残念ながら年々わずかずつではあるのですが、参加者数や開催自治会数が減ってきていたということは事実でございます。当然担当課としてもその要因は何だとか、あるいは改善策はないのか、そういったことは内部で検討をしております。各自治会さんのほうから直接的にお話をいただくケースもありますし、それをお聞きしますといろいろな要因があるのだなというふうに思います。当然町政懇談会自体に関心を持たなくなったという方もいらっしゃるでしょうし、年によっては町長の公務がぶつかってしまったり、あるいは災害等が起こって2度も3度も日程をずらさなければならなくなって、結果その年はやらなくなったというケースもございましたし、出席される参加者の方もお仕事をしながら夜に時間をつくって来ていただいている方も当然いますから、その方々の日中のご都合なんかもあろうかと思います。かなりいろいろな要因が複雑に絡んでいるのではないかなというふうには分析しています。

また、ことしの予算審査委員会の中で同様のご質問をいただいて、その際に町政懇談会で言っても意見が反映されないと、だから来なくなっているという声を聞きますということをお佐藤議員のほうからご指摘をいただいて、それに対して当然全て言われたことを、いただいたご意見を直ちに実現をするということではできないような内容ももちろんありますし、もちろん対応しているケースもありますし、ですから言ってもかなわないというか、聞いてもらえないというふうには受けとめられていたのであれば大変残念なことではあるのですが、町側のほうとしてもせっかく出向いて皆さんのご意見いただいているわけですから、今後も含めて開催に当たっては、できる限り可能な範囲で皆様のご意見を真摯に受けとめて、町政運営に反映できていたらいいなというふうには考えております。前回の質問も踏まえてご答弁をさせていただきます。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） 今答弁いただきましたけれども、私は長く自治会活動しているのですけれども、町政に対する関心度が薄くなったのではないかと思います。それはどこに原因があるのかなということも考えてはいるのですけれども、なかなかいい知恵が浮かん

できません。

そこで、28年度開催できなかった一つの理由として、特定のテーマに絞ってのテーマ内容が内部での検討で十分煮詰まらないといえますか、調整不足だったということも答弁の中にありましたけれども、余り大きなテーマを大上段に構えてやると、なおさら集まらないのでないかなと思うのです。といいますのは、一つの例を申し上げたいと思います。2年ほど前でしたでしょうか、公共施設のことについて、適正配置についての懇談会、説明会がありました。町内では2カ所でした。久保内会場と滝之町会場です。そこで、久保内会場では久保内の皆さんが3名と滝之町から1名でした。それから、こちらの滝之町地区で開いたときには滝之町から2名と久保内方面から1名の3名でした。そのように何か町民の皆さんこの公共施設の適正配置については十分関連はあるのですけれども、余り難しいテーマを大上段に掲げてやると、食わず嫌いといえますか、そういう現象が起きて、なかなか難しい面があるのでないか。ですから、集まらないことは、いい意味で解釈すれば町政は信頼し切っているから、任せているから行かなくていいのだというのと、もう一つは先ほど参事のほうからお話あったように行ってもなかなかそれがかなえられないというような面もあるのでないかな、そういう二面性があるのでないかと思しますので、先ほどの答弁の中に29年度は第5次行政改革実施案についてテーマにしたいようなことを言うておりましたけれども、これは町民の皆さんに理解してもらって意見を求めるということは大変難しいのでないかなと思うのです。ですから、例えば身近なテーマを一つの主題にしていくことが必要でないか。ですから、答弁の中に町政懇談会は町民の生の声を聞く貴重な機会として行政は捉えているのですから、やはりこれからのまちづくりの中で地域の課題だとかそういうものを聞いて、それにすぐ対応しなくても何年か後にはそういう声が町政に反映できるようなシステムをつくることが必要でないかなと私は思っているのですけれども、このことについてどのようにお考えになるか伺いたいと思います。

○議長（松本 勉君） 答弁、総務課、庵参事。

○総務課参事（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

議員がおっしゃってありました2年前のものにつきましては、恐らく壮瞥町総合戦略、地方創生にかかわる総合戦略策定した際に説明会という形で2カ所で開催させていただいた内容かなというふうに思います。定住促進の場合はもうちょっと人がいらっしやっていたので、そちらのほうかなというふうに思いますが、そもそも総合戦略の説明会自体が懇談会というよりは本当に説明会という趣旨が強かったので、ましてなじみのない言葉でございまして、ちょっと取っつきづらくて興味を持たれなかったということは十分あり得るなというふうには考えます。

また、今回行政改革をテーマに考えているというふうにお話をしましたが、確かに行政改革という言葉だけであれば同じようになじまないのかもしれませんが、今後の検討次第ですが、内容によっては本当に住民の皆さんの生活に直結するような話題も恐らくは入ってくる可能性がございますので、お声がけをする際にはテーマだけではなくてどういう中

身なのかということもできるだけ説明をして、理解をしていただいで来ていただけるような、そういう働きかけはしたいなというふうには思います。

それから、地域の課題についてということですが、町政懇談会の中でどのようなテーマであっても必ず地域の課題はございませんかということは投げかけをして、その分の議論をするというか、意見を聞く時間は設けるようにしてやってまいりました。その中で、時によっては地域の課題だけをお聞きしに行くという趣旨で行った年もございまして、そのときに住民の方から逆に町のほうからは何かないのですかというようなこといただいでいたので、それであれば町からの話題提供、ご意見を紹介する分が一部あって、その他の部分で地域の逆に皆さんのほうから問題提起というか、日ごろ感じていることをお聞かせいただきたいということで、2部構成みたいなイメージで27年ごろは進めていたように記憶をしています。ですから、今回につきましても決して行政改革だけをテーマにこちらの説明を一方的にして、意見を聞いて帰ってくるのではなくて、必ずその地域の課題というものを聞く時間は設けて、双方向で話題を提供しながら議論できるような、そういう展開を目指して今年度開催をしていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（松本 勉君） 1番、佐藤恣君。

○1番（佐藤 恣君） 基本的な考えわかりました。

そこで、私訂正させていただきたいのですけれども、先ほど主題のとり方を勘違いしておりまして、それは訂正させてください。先ほど参事が言われた内容だったと思います。

そこで、いろいろと広報活動だとか広聴活動について質疑を交わしてきましたけれども、前にもこのこと言ったような気がするのですけれども、最後に町長の考えをお聞きしたいと思うのですけれども、広報の掲載の中に平成23年11月号から隔月で1カ月置きに「町長のつぶやき」というのが入っておりました。その第1回目を要約しますと、町長に当選して6カ月が過ぎました。その後ちょっと文章はあるのですけれども、それは省略いたします。皆様のご意見等を町政に反映するため町政懇談会を、その年は8月24日から始まったのです、8月24日から始めています。皆様のご参加をお願いしますとあります。このように町長がみずからつぶやきで呼びかけている。そして、今度は平成27年の3月号を見ました。早いもので私の任期も残すところ2カ月を切りました。中はちょっと省略します。町民の皆さんが心豊かにして安心して暮らしていける壮瞥町を継続するために、皆様の協力のもと知恵を出し、行政運営を行うことが求められていると思いますということで締められているのです。その後どこを探してもそういうつぶやきが出てこないです。大分町長の腹の中にはつぶやきがたまっているのではないかと思いますけれども、これは広報の編集上の問題でやめられたのか、または町長みずからもう書くのが面倒だからといってやめたのか。あのときほかの町村の例も挙げて、ある町長は毎月1,000文字以上のものを書いていますということも紹介したと思うのです。そんなに長い文章でなくて、そのつぶやきの中に町長が今町民に求めるようなものを書いていただいで、それを見て町民一人一人が町長こん

な考え持っているのなら俺たちもというような空気を育てるような手だてが私は町長に求められているのではないかと思うのですけれども、まずこのやめられた理由、それと編集上のことであれば担当参事をお願いしたいと思えますけれども、多分そんなことはないと思いますが、どうしてこれをやめられたのか。やはり町長がみずから町民に呼びかけていく姿勢を私は求めたいと思えます。このことについてどのように考えるか伺います。

○議長（松本 勉君） 答弁、町長。

○町長（佐藤秀敏君） つぶやきにつきましては、平成 23 年から 1 カ月置きに掲載をさせていただいて、1 期目は 1 カ月置きにつぶやきに掲載させていただきました。2 期目なげしないのだというご意見ですけれども、前回もそういった質問があったかなというふうに思いまして、決して 2 期目当選したからどうのこうのでやめたのではなく、ちょっと休ませていただくというお話をさせていただきました。ただ、いつも自分自身もそういった広報を通じて、あるいはいろいろなものを通じて町民の皆さんに今思っていること、考えていることをお知らせする機会が必要であるということは常に認識をしております。ですから、そういった指摘があったから始めるということではなくして、そういった機会を今後つucking していきたいというふうに思います。

また、広報等につきましても、ホームページにつきましても改善された部分は本当に多くあるというふうに、僕もホームページ見てそういう認識をしております。そして、町民の皆さん、全ての皆さんがそのホームページを見る機会というのはなかなか少ないかなというふうに思います。特に私も含めて高齢の皆さんは、パソコンを操作するのがなかなか難しい面もございますので、ホームページを開くということはなかなか高齢者の皆さんは無理かなというふうに思います。失礼な部分もあるかもしれません。見ている高齢者の皆さんがいらっしゃるかもしれません。ですが、そのためにもなるだけ広報、毎月見えますと職員の皆さんも努力されて、行政の進めていることについて、また町民の皆さんが必要としている情報については、この広報の中で大半僕はお知らせさせていただいているのではないかなというふうに思っております。今後とも議員ご指摘のように改善するものについては改善させていただきますし、そういったことをご指導いただければなというふうに思っております。

次に、町政懇談会の開催でございますけれども、平成 23 年から毎年町政懇談会を開催させていただいて、多くの自治会で開催をしていただきました。23、24 ではほとんどの自治会で開催をしていただきましたし、またその後もそんなに極端に減ったという僕は認識はないのです。一人でも二人でもいいですから、自治会に集まっていた人方で意見交換をできればなというふうに思っております。ですから、自治会の都合で今回は見合わせたいという自治会もありますけれども、十七、八カ所毎年町政懇談会を開催していただいているというふうに思っております。

ただ、その地域の皆さんのご意見、課題等について全てを聞き入れて、それを町政に反映できるかという、なかなか困難な部分もございます。先日の自治会長会議等でもお話

しさせていただきましたけれども、その内容について、ご意見等については選択をさせていただきながら、急ぐ部分については早急に対応したいというふうにお話をさせていただいておりますし、今までもそうしてきたつもりであります。ですから、その開催場所での回答をしている部分と、あるいは持ち帰って担当課のほうの回答も自治会長さんのほうにその年、その年の部分についてはなるべく早く回答をさせていただいているつもりでございます。ですから、そういったことを踏まえまして、28年度開催しなかった件については本当に申しわけないというふうに思っておりますけれども、今後はそういった町政懇談会は私自身も進めていくという考えでありますので、今後各地域の皆さん方のご協力をいただいで、実施をしていきたいというふうに思います。ただ、先ほどから申し上げているとおり、その課題について全てすぐ解決できるかという、やはり時間がかかる問題もありましょうし、そういったところはどうかご理解をいただきたいというふうに思っております。

ことは、第5次の行政改革の案についてご説明させていただく予定でありますけれども、これは決してそれをもとにして、行政側がこういう案はどうでしょうかという案を提示して、町民の皆さんが考えている内容、これでいいのか、そしたらこの計画についての意見はどうなのだというやはり意見もいただきたい。そういうことも踏まえまして説明をさせていただいて、それに対する町民の皆さんの地域の皆さんの意見も取り入れていきたいし、そういったことで今回は進めさせていただきたいというふうに思っております。やはり町が進めていることに対して説明をさせていただく機会を設けさせていただくことも僕は大事なかなというふうに思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○議長（松本 勉君） これにて一般質問を終結いたします。

◎議案第38号ないし議案第50号並びに報告第1号及び報告第2号

○議長（松本 勉君） 日程第7、議案第38号ないし議案第50号並びに報告第1号及び報告第2号を議題といたします。

理事者から提案理由及び内容について説明を求めます。

町長。

○町長（佐藤秀敏君） 今定例会に提出いたします議件は、議案第38号から議案第50号までの13件、報告第1号から第2号までの2件、計15件であります。

この提出議案のうち、人事案件についてご説明申し上げます。議案第38号から議案第45号につきましては、壮警町農業委員会委員の任命についてでありますので、一括でご説明いたします。

現在の委員の任期は、平成29年7月19日をもって任期満了となりますが、農業委員会等に関する法律改正に伴い7月20日に新制度に移行することとなるため、農業委員会等に関する法律第8条第1項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

農業委員会委員の募集を2月1日から2月28日までの間実施したところ7名の方が地

区推薦、または団体推薦、1名の方が個人推薦、1名の方が自薦と9名の方の応募がありました。5月8日に候補者評価委員会を開催し、地区推薦、団体推薦、個人推薦のあった8名を選定し、自薦の方を次点とした旨の報告があり、この8名について提案するものがあります。

議案第38号、壮警町字滝之町379番地、杉村和男氏、議案第39号、壮警町字滝之町353番地、堀口英男氏、議案第40号、壮警町字立香189番地、松本敏春氏、議案第41号、壮警町字滝之町450番地、岩倉隆氏、議案第42号、壮警町字幸内124番地3、南和孝氏、議案第43号、壮警町字立香40番地、清水俊一氏、議案第44号、壮警町字滝之町229番地、関昭博氏、以上7名はいずれも認定農業者で、これまで農業委員を務めている方々であります。議案第45号、壮警町字滝之町416番地21、畠山恵美子氏、農業に関係のない方で、また女性の方ではありますが、民生児童委員や現在町の臨時職員として活躍されており、地域事情等を理解されている方です。当町農業委員会委員として適任であると存じますので、ご同意を賜りますようお願いを申し上げます。

以上、提案説明といたします。

○議長（松本 勉君） 副町長。

○副町長（杉村治男君） 引き続き議案の説明をさせていただきます。

議案第46号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例を、別紙のとおり制定する。

こちらは、児童福祉法の一部を改正する法律の施行及び人事院規則の改正に基づき、所要の改正を行う条例改正を提案するものであります。

新旧対照表を別につけておりますが、ただいま説明した内容のとおりでございます。

附則で、この条例は、公布の日から施行することとしてございます。

次に、議案第47号 そうべつ子どもセンター条例の一部を改正する条例の制定について。

そうべつ子どもセンター条例の一部を改正する条例を、別紙のとおり制定する。

こちらは、国における幼児教育の段階的無償化の取り組み及び北海道が取り組む多子世帯の3歳未満児で第2子目以降の保育料無償化などにより、本町の保育料を定めているそうべつ子どもセンター条例について所要の改正を行う条例改正を提案するものであります。

こちらにも新旧対照表を別につけておりますが、これは後ほどごらんいただきたいと思います。

今後も法令等の改正に伴い保育料の軽減措置が講じられることが予想されることから、保育料の定めを規則に委任し、制度改正があった時点で早期に対応がとれるようにしたいと考えております。

こちらにも附則で、この条例は、公布の日から施行することとしております。また、4月に遡及して適用することとしてございます。

議案第48号 胆振支庁管内公平委員会規約の変更について。

地方自治法第 252 条の 7 第 2 項の規定により、胆振支庁管内公平委員会規約を別紙のとおり変更することについて議会の議決を求める。

こちらは、西胆振消防組合が共同処理する事務に火葬場に関する事務を追加することにより、名称を西胆振行政事務組合に変更するものであります。

附則で、この規約は、公布の日から施行し、改正後の別表の規定はということで 29 年 6 月 1 日から適用することとなっております。

次に、議案第 49 号 平成 29 年度壮瞥町一般会計補正予算（第 4 号）について。

平成 29 年度壮瞥町一般会計補正予算（第 4 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、既定の歳入歳出予算の総額 40 億 5,756 万 6,000 円に歳入歳出それぞれ 4,974 万 8,000 円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 41 億 731 万 4,000 円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

第 2 条、地方債の追加及び変更は、「第 2 表 地方債補正」による。

事項別明細書、歳出から説明をいたします。23 ページです。総務費、総務管理費、一般管理費で 25 万円の追加となります。胆振管内 7 町連携魅力発信事業に係る町村会負担金の計上となります。胆振町村会を構成する 7 町が連携してタウンプロモーション推進協議会を立ち上げ、H T B、北海道テレビ放送に委託し、7 町の魅力を発信するテレビ番組を制作し、全道、全国放送及び海外放送、中国、台湾、タイ、ハワイの放映及びインターネット配信として広域で取り組むこととなり、均等割分を計上するものであります。全体事業費は 700 万円で、うち 2 分の 1 は道の交付金を充当することとなっております。

防災諸費では財源区分の変更で、ふるさと応援寄附金の充当による財源の整備となります。

財産管理費で 100 万円の追加となります。仲洞爺野営場に活用することとして匿名による寄附があったことと、あわせてふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

企画費で 530 万円の追加となります。地域情報通信基盤整備事業では、オロフレ地区で支障となる光ケーブル移転に要する経費計上となります。行政情報システム運用管理事業では、マイナンバー制度情報連携等の開始に向けた整備作業費用の経費計上となります。また、国道 453 号線形改良工事などに伴い支障となる光ケーブル移転に要する経費計上となります。定住促進まちづくり推進事業では、いきいきふるさと推進事業の補助対象となるよう事業の精査を行い、補助金を減額し、フォトコンテスト開催に関連する報償費から役務費までの予算組みかえを行うものであります。

胆振線代替輸送業務費で 360 万円の追加となります。国道 453 号線形改良工事に伴い、平成 28 年度に支障となっていたバス停を移設、撤去していたものを 29 年度設置に要する経費計上となります。

24 ページです。民生費、社会福祉費、乳幼児医療費では財源区分の変更で、ふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

児童福祉費、児童措置費では財源区分の変更で、国の子ども・子育て支援法施行令の一部改正及び北海道の多子世帯の保育料負担軽減事業による保育料の一部無償化に伴う財源の整理とふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

衛生費、保健衛生費、温泉管理費で 500 万円の追加となります。国道 453 号蟠溪道路事業に伴う支障となる温泉管の移設が必要なため、移設設計に要する経費計上となります。移設補償対象となりますが、補償額は確定後に予算整理を予定しております。

清掃費、じんかい処理費で 20 万円の追加となります。4 月 18 日の強風災害により、ほくと団地自治会の資源ごみストックヤードが倒壊したことにより再設置に要する経費の 3 分の 2 以内、限度額 20 万円を補助するための経費計上となります。

25 ページ、農林水産業費、農業費、農業振興費で 11 万 5,000 円の追加となります。経営所得安定対策直接支払推進事業と環境保全型農業直接支援対策事業について、それぞれ事務費配分による予算の整理とふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

農地費で 776 万 9,000 円の追加となります。農地一般事業では、道営土地改良事業費の増加に伴う地元負担金の増加に伴う経費計上となります。多面的機能支払事業では、町内農業者等が取り組む実施団体への組織の推進や計画策定の指導等に要する事務的経費の配分による予算の整理となります。農業基盤整備促進事業では、補助事業として上久保内地区農業用排水路の補修工事、延長 60 メートルに要する経費計上となります。

商工費、観光費では財源区分の変更で、ふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

土木費、河川費、河川総務費で 400 万円の追加となります。河川維持経費となりますが、ホロト川の河床と護岸の修繕に要する経費計上となります。

消防費では財源区分の変更で、西胆振消防組合救助工作車更新事業について起債申請額に合わせるための予算整理となります。

26 ページ、教育費、中学校費、学校管理費で 360 万円の追加となります。中学校運営事業となりますが、壮瞥中学校体育館暖房ダクトについて 4 月 18 日の暴風雨によるボイラ一室浸水被害の調査中に金属製の暖房送風ダクトが水没し、全体が腐食し、機能していない状態を確認したため修繕に要する経費計上となります。

高等学校費、地域農業科実習費では財源区分の変更で、ふるさと応援寄附金の充当による財源の整理となります。

災害復旧費、公共土木施設災害復旧費、道路橋梁河川災害復旧費で 416 万円の追加となります。4 月 18 日の暴風雨被害が新たに確認されたことによる対応分となりますが、町道山手線の法面補修と排水補修、あわせて土砂処理とパンケ川河川の倒木処理に要する経費計上となります。

農林水産施設災害復旧費、農林水産災害復旧費で 1,380 万円の追加となります。こちらも 4 月 18 日の暴風雨被害が新たに確認されたことによる対応分となりますが、東湖畔林道の倒木処理と駒別林道の倒木処理、また法面排水補修、あわせて路面整正に要する経費

計上となります。

給与費で 95 万 4,000 円の追加となります。高校教員の人事異動に伴う単身赴任手当と期限つき職員の採用による社会保険料の不足分に要する経費計上となります。

次、歳入になります。21 ページです。分担金及び負担金、負担金、民生費負担金で 145 万 3,000 円の追加となります。国の子ども・子育て支援法施行令の一部改正及び北海道の多子世帯の保育料負担軽減事業に伴う保育料の一部無償化による整理となります。

分担金、農林水産業費分担金で 9 万円の追加となります。道営土地改良事業費の増加に伴う整理であります。

道支出金、道補助金、民生費補助金で 93 万 3,000 円の追加となります。北海道が実施する多子世帯の保育料負担軽減事業による保育料の一部無償化に伴う整理となります。

農林水産業費補助金で 435 万円の追加となります。経営所得安定対策直接支払推進事業、環境保全型農業直接支援対策事業、多面的機能支払事業、農業基盤整備促進事業は、いずれも割り当て通知に伴う整理となります。農業競争力基盤強化特別対策事業は、道営土地改良事業の事業費増加に伴う整理となります。

22 ページ、繰入金、基金繰入金、胆振線代替輸送確保基金繰入金で 360 万円の追加となります。国道 453 号線形改良工事に伴い、平成 28 年度に移転、撤去していたバス待合所を設置するための財源充当となります。

国際交流基金繰入金で 41 万円の減額となります。ふるさと応援寄附金の充当による整理となります。

地域振興基金繰入金で 100 万円の追加となります。指定寄附金として仲洞爺野営場改善に充当する整理となります。

財政調整基金繰入金で 698 万円の減額となります。一般財源の調整によるものであります。

ふるさと応援基金繰入金で 3,581 万 8,000 円の追加となります。全額を各種事業に充当するものとなりますが、内訳は防災諸費に 70 万円、公共施設管理に 508 万円、乳幼児医療助成に 552 万円、保育子育て環境整備に 714 万 6,000 円、一般農政に 318 万 2,000 円、堆肥センターに 210 万円、観光施設維持に 913 万円、昭和新山国際雪合戦に 50 万円、地域農業科実習運営に 205 万円、中学生フィンランド派遣に 41 万円であります。

町債、農林水産業債で 40 万円の追加、消防債で 1,240 万円の追加となります。

第 1 表の歳入歳出予算補正につきましては、ただいま説明した内容の再掲ですので、説明は省略をします。

18 ページの第 2 表、地方債補正では、追加で救助工作車更新事業、限度額 1,240 万円を、変更では道営土地改良事業、限度額 30 万円を 70 万円にするものであります。

また、最後 27 ページに給与費明細書をつけておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

○議長（松本 勉君） 暫時休憩といたします。

休憩 午後 1時51分

再開 午後 1時51分

○議長（松本 勉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○副町長（杉村治男君） 失礼しました。歳入の説明のところで、最初21ページ、分担金及び負担金、負担金、民生費負担金で補正額を145万3,000円の減額のところを追加というふうに説明したようであります。訂正いたします。145万3,000円の減額であります。訂正をお願いします。

では、説明を継続します。28ページ、議案第50号です。平成29年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）について。

平成29年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）は、次に定めるところによる。

第1条、既定の歳入歳出予算の総額1億8,340万円に歳入歳出それぞれ3,440万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億1,780万円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

第2条、地方債の変更は、「第2表 地方債補正」による。

こちら事項別明細書、歳出から説明をいたします。33ページになります。施設費、建設改良費で3,440万円の追加となります。蟠溪道路2工区の改良工事が平成30年度から実施されることとなり、水道管移設工事に要する調査設計費を計上するものであります。また、道道洞爺湖登別線では当初四十三橋の工事を予定していましたが、工事箇所の変更があり、道の工事にあわせて水道管の移設等を行うための経費計上となります。国道453号線形改良工事では、開発建設部との協議により仮設管の延長等の増加など追加事項による経費計上となります。

歳入では、諸収入、雑入で750万円の追加となります。道道の工事変更に伴う補償費となります。

町債、衛生債で2,690万円の追加となります。

第1表の歳入歳出予算補正につきましては、ただいま説明した内容の再掲ですので、説明は省略をします。

30ページの第2表、地方債補正では変更で、簡易水道施設整備事業、限度額4,600万円を限度額7,290万円とするものであります。

次に、報告第1号 平成28年度壮瞥町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告についてであります。

第1回定例議会で議決をいただいていた地方創生関係を含めた補正予算など個人番号カード交付事業ほか8件について年度内には事業執行することが時間的にできないことから、それぞれ繰越額の範囲内で平成29年度に使用する歳出予算経費として繰り越しをいたし

ました。よって、地方自治法施行令第 146 条第 2 項の規定により、繰越明許費繰越計算書を調製いたしましたので、議会に報告するものであります。

次に、報告第 2 号 平成 28 年度壮瞥町一般会計事故繰越し繰越計算書の報告についてであります。

公共施設管理事業では、仲洞爺センターハウスの内部修繕において換気ダクト等製作資材の早期納品が困難な状態となり、年度内完成が見込めないため、やむを得ない事情と判断して事故繰り越しとしたものであります。

被災農業者向け経営体育成支援事業において昨年の台風 10 号により被災した農業者のハウスの修繕や再建に向けた資材の納品が資材不足等により遅延して、年度内完成が見込めないため、やむを得ない事情と判断し、事故繰り越しとしたものであります。

上久保内地区農業用排水路補修事業において本工事で整備する排水路に近接して雑用水管路が埋設してあり、漏水していることが判明しました。この管理者と協議した結果、冬期間では管路凍結のおそれがあり、3 月中旬以降に雑用水管路修繕となったため年度内完成が見込めないため、やむを得ない事情と判断し、事故繰り越しとしたものであります。

よって、地方自治法施行令第 150 条第 3 項の規定により、事故繰越し繰越計算書を調製しましたので、議会に報告するものであります。

以上が今定例会に提出します議案の内容でございます。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

以上で説明を終了いたします。

○議長（松本 勉君） これにて提案理由及び内容についての説明を終結いたします。

◎散会の宣告

○議長（松本 勉君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

6 月 16 日の議事日程は、当日通知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

（午後 1 時 5 8 分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員